

Marche Radio

Guest Speaker：さなだ商店 真田 希

美しいものは世界を救うと思っています。

美しいものを見たり、体験をした時の心は、人と争う事ができません。

日本には美しい工芸品や美術品が沢山あって、それを世界に広めて世界中の人の心の豊かさを取り戻さないといけない！と思っています。

そんな中、日本を代表する美しい伝統工芸品である輪島塗の産地である石川県能登半島が大地震に襲われ、輪島塗が廃れてしまうのは日本の損失となると思い、輪島塗の復興を願うに至りました。

2024年元旦に能登半島の大地震が起きました。

2023年の春から秋頃までに、私が教える工芸の授業で、漆工芸について学び、木地作り→塗り→加飾という手順を踏んで工芸漆で小皿を制作しました。

その共通項を持って、震災と支援ボランティア、被災された方々に対して自分達にできることは何か無いのか、高校生達に自分ごととして捉えてもらいたかった、と言うのがあり、尚且つ、自分1人で動くよりも、1人でも多くの仲間と動く方が、支援する力も多少大きくなるのではないかと考えました。

それプラス、高校生たちには、生きていく術、自分でお金を生み出す事ができる、と言うことも体験させたかった、というのがあります。

寄付をするにも、自分の身を削って寄付するのではなく、寄付するものを自分で生み出す、自分が苦しくならない寄付の仕方もあるのではないかと、言う事も考えました。

実際に作品を売って寄付金を募ると言うのは、なかなか難しい。そもそも、物を売って難しい。美しいものを手にして購入するという文化を根ざさせないといけない→美しいものを愛でる心の余裕や、鑑賞する文化、作る人と見る人のコミュニケーションなどなど、美術品や工芸品を取り巻く色々な事柄は、そんな簡単に根付かせる事はできないけど、やっぱり作る人のファンを増やす事が一番早いのかと思ったりしました。

高校で時間講師として工芸や美術を教えながら、とにかく自分が作品を心地よく作れるようにするために、自分のモチベーションや情熱が高まるのを待っています。

自分をもっと技術的に機械に負けないようなモノ作り、表現ができるようになって、1つでも多く人に手にしてもらって購入いただき、寄付金に繋がりたいと思っています。

幸せな人を増やすために活動したいと思っていて、その一環で絵画や工芸品を作っていますが、最近、占星術を学び、スピリチュアル能力も高め、占いやカードリーディングもできます。今、背中を押してもらいたい事があったり、モヤモヤしている事があれば、何かしらメッセージを贈ったり、占いで解明したりしています。